

高等学校における総合的な学習の時間の在り方と評価

- 総合的な学習の時間「北斗 21」の在り方と評価 -

愛知県立一宮北高等学校

1 はじめに

一宮市の北端に位置する本校は、昭和 50 年に開設された全日制の普通科高校である。自然に恵まれた閑静な環境の中で、生徒たちは落ち着いた学校生活を送っており、卒業後は大半の生徒が上級学校へ進学している。

平成 15 年度に高等学校に導入された総合的な学習の時間は、今年度 3 年目を迎えた。本校では、総合的な学習の時間を、21 世紀を生きる生徒たちに、校歌に登場する「行く手示す北斗七星」のごとく、在り方生き方の指針となる内容を学ばせようと、「北斗 21」と命名した。今年度は、全学年、毎週木曜日第 6 限を「北斗 21」の時間とし、次のような計画を立てて実施している。すなわち、1 年生では、年間を通じて進路研究を行い、おおむね 1 学期に自己理解、2 学期に職業研究、3 学期に上級学校研究の 3 つのステージを配置する。2 年生では、模擬講義や進路講話、夏休みのオープンキャンパスへの参加とその報告会等の進路的内容に加え、現代社会の諸問題を主に小論文指導を通じて考察、研究させる。3 年生では、学部学科系統別説明会や進路講話等を実施するほか、進路希望に応じた教科横断的な指導も行う。

「北斗 21」の指導は正担任・副担任が担当し、原則として学級単位で展開している。進路講話や進路説明会を 2 時間連続で実施する場合には、第 5 限の授業を別の週の「北斗 21」の時間と振り替えることにしている。各学年には「北斗 21」のためのワーキンググループが置かれ、毎時間の指導内容や授業展開の立案、生徒に配付するワークシートの準備等を担当している。ワーキンググループは、学年主任をチーフとし、主として学年の教務部や進路指導部の代表から構成されている。

2 過去 3 年間の研究の取組

(1) 研究の目的・方法

ア 目的

本校では、特に 1・2 年生の段階では生徒の進路意識はあまり高くなく、漠然と「進学したい」と思っているが、自己の進路実現のために努力し、日ごろの学習に意欲的に取り組む生徒は必ずしも多くはない。そうした実情を踏まえ、「北斗 21」では各学年とも進路研究を柱として指導計画を立てることにした。進路研究を通じて、生徒一人一人に対して、将来の目標を早期に明確にさせ、進路実現に向けての意識の高揚と計画的な努力を促すとともに、学校全体として学習環境の改善を図ろうと意図したのである。

しかしながら、実施 3 年目を迎えた「北斗 21」は、本校ではまだ模索の段階にあり、指導内容、指導方法とも十分に確立してはいない。しかも、「北斗 21」における生徒の活動を、目標に照らしていかに関評価していくかという問題もある。そこで本研究では、「北斗 21」の在り方をいかに改善していくか、生徒に対する評価の方法をいかに工夫していくかという 2 点をテーマとすることにした。

なお、今年度の研究対象は、過去の取組を基に内容等の改善が可能な 1 年生と 2 年生の「北斗 21」に限定することにしたい。

イ 方法

(ア) 「北斗 21」の在り方について

生徒や教員の声を指導内容の改善に生かすため、各学期の終わりにアンケートを実施し、毎時間の

学習・指導内容について感想や意見を聴取する。そして、ワーキンググループがアンケート結果を分析・検討して、次学期及び次年度の学習・指導内容を組み立てていく。アンケートの作成及び集計は教務部が担当し、経年比較ができるよう、質問項目はできるだけ毎年共通になるようにしている。

(1) 「北斗 21」の評価方法について

総合的な学習の時間における生徒の評価は、学習した結果の到達度だけでなく、学習の実践や経験自体も対象となる。そのため、毎時間の学習活動を形あるもので蓄積していく必要がある。その点で、毎時間のように生徒に配付し、記入させているワークシートは、重要な評価資料となる。また、生徒向けアンケートは記名式とし、「北斗 21」に対する取組状況を自己評価させるようにしているため、これもまた評価のための資料となる。

その一方で、担任が生徒の活動を評価する際、評価の観点が明確になっていなければならない。そこで、教務部が「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の4観点に基づく評価規準表を作成し、担任に提供している。評価規準表に掲げる評価例文は、担任が学年末に生徒指導要録の評価欄を記入する時の参考にもなる。

(2) 1年生における研究の内容

ア 指導内容の概要

これまでの3年間、1年生に対しては、年間を通じて進路研究を実施してきた。その最初の年度である平成15年度の具体的な実施内容は、＜別表1＞のとおりである。

進路講話は、主に外部から講師を招き、高校1年生の時点での進路の考え方や、社会人になるための心得、社会人に必要な資質などをテーマとして、生徒全員を体育館又は武道場に集めて実施した。その際、講師の話を生徒にしっかりと聞き取らせる工夫として、講話の前に、＜別表2＞に示すようなメモ用ワークシートを配り、講話中に記入させた。そして、講話終了後生徒を教室に戻し、正式のワークシートを配って、これに清書させた上で、提出させた。ともすれば、ただ話を聞く、資料を見るということだけで過ぎてしまう進路講話だが、このメモ用ワークシートのおかげで、講話の内容をより強く生徒の心に刻み込むことができたと思う。

毎年夏休みの課題としている「職業インタビュー」は、身近にいる社会人3人から仕事の内容等を聴取するものである。生徒は＜別表3＞にある用紙にインタビューの内容をまとめ、9月に入ってそれを教室で発表する。その際、ワークシートに一人一人の発表内容の要点を記録させるとともに、生徒間で発表内容や発表態度について相互評価させることにしている。

職業別説明会や学部学科系統別説明会は、10を超える会場を設置し、大学や専門学校に講師の派遣を依頼した。生徒には事前に希望調査を行い、人数を調整した上で、前半・後半の参加会場を登録させた。各会場には教員を1名ずつ配置し、講師の誘導、会の進行、生徒の指導等に当たった。

イ アンケートの実施

＜別表4＞は、今年度1学期末に実施した1年生向けのアンケート用紙（生徒用）の一部である。アンケートは4択式を原則としているが、具体的な生徒の声を聴取するために自由記述の欄も設けている。過去3年間の各学習内容に対する肯定的な回答（「おおいに役立った」・「少し役立った」・「よく理解できた」・「だいたい理解できた」など）の割合は＜別表5＞のとおりである。

アンケートによれば、概して生徒はどの学習内容に対しても興味をもって取り組み、内容をよく理解するとともに、自己理解や自分の進路選択に役立ったと感じている。もう少し細かくみれば、職業

< 別表 1 > 平成 15 年度 1 年生の実施内容

1 学期（自己理解）	2 学期（職業研究）	3 学期（上級学校研究）
クレペリン検査	職業の学習	上級学校の学習
進路適性研究	職業の学習 第 1 学期アンケート	上級学校の学習
高校生活利エンターションまとめ 「将来の夢」作文	職業インタビュー（夏休みの課題）	進路講話（○ 大学）
「将来の夢」作文	職業インタビュー発表会	学部学科系統別説明会
進路講話（進路情報会社）	職業インタビュー発表会	進路講話（看護・公務員予備校）
類型選択説明会	職業インタビュー発表会	人生設計図の作成 第 3 学期アンケート
	進路講話（○○信用金庫）	
	職業別説明会	
	職業別説明会まとめ 第 2 学期アンケート	

< 別表 2 > メモ用ワークシート

1 月 15 日 進路講話メモ （提出不要） <u>講話中にこの用紙にメモをとり、あとで配付するワークシートに清書すること。</u> 「キャリアデザインから進路を考える」 ○ 大学入試広報課長 ××先生 キャリアとは。キャリアデザインとは。 社会人として必要なチカラ 大学で身に付けるチカラ 企業の採用手順および採用する際の重要項目 学部・学科選択のポイント 講話全体についての感想

<別表3> 職業インタビュー記入用紙

インタビューした相手 自分との関係〔 1.親 2.親戚 3.知人 4.その他()〕 職種〔 1.事務 2.製造 3.営業 4.サービス業 5.その他()〕 *勤務先〔 () 〕 *お仕事に就いて何年ですか〔 () 〕年 *年齢〔 () 〕歳 男・女 (*については差し支えなければ記入してください。) 1.仕事について	
1.どのような仕事内容ですか。	
Q2.勤務時間はどのくらいですか。 ・勤務時間 _____時_____分～_____時_____分 実労時間_____時間 ・勤務形態 勤務日数 _____平均 週_____日 祝祭日以外 a.土日週休2日 b.日曜日と隔週土曜日 c.日曜日のみ の休日 d.その他の曜日 e.不定休 (該当箇所を○で囲む) 通勤時間 片道_____時間_____分	
Q3.転勤・定年について教えてください。 転勤はありますか _____ある _____ない 定年は何歳ですか。 ()歳	
Q4.その仕事をするためには、どんな資格や免許・学歴が必要ですか。 資格・免許 学歴など	
2以降、省略	

<別表4> 生徒向けアンケート用紙(平成17年度)

第1学期 1年総合的な学習の時間「北斗21」 アンケート ()組()番氏名() 1学期の「北斗21」は自己理解を柱として実施しましたが、これまでの学習を振り返って次の質問に答えてください。 (1) 4月13日に実施したクレペリン検査は、自己理解にどの程度役立ちましたか。 1 おおいに役立った 2 少し役立った 3 あまり役立たなかった 4 全然役立たなかった (2) 4月14日に実施した進路適性検査は、自己理解にどの程度役立ちましたか。 1 2 3 4 (3) 4月21日に実施した「これまでの自分を振り返ってみよう」は、自己理解にどの程度役立ちましたか。 1 2 3 4 (4) 6月2日には類型説明会を行いました。類型選択や科目選択の説明は、どの程度理解できましたか。 1 2 3 4 (5) 6月16日には教育実習生8人から話を聞きました。 ア 教育実習生の話の内容に興味をもてましたか。 1 2 3 4 イ 話の内容は、自分の将来を考える上でどの程度役立ちましたか。 1 2 3 4 (以下、省略)

<別表5> 1年生アンケート結果（肯定的回答の割合）

学 習 内 容	学 習 後 の 反 応	17 年度	16 年度	15 年度
クレペリン検査	自己理解に役立った	61.1%	68.7%	63.9%
高校生活振り返りまとめ	内容を理解できた	-	74.0%	-
進路適性研究	自己理解に役立った	78.6%	75.8%	75.2%
「将来の夢」作文	自己理解に役立った		61.7%	35.7%
「これまでの自分を振り返ってみよう」	自己理解に役立った	59.0%	-	-
進路講話（15 年度，進路情報会社）	将来を考える上で役立った	-	-	72.6%
進路講話（16・17 年度，進路主任）	将来を考える上で役立った	78.2%	73.6%	-
類型説明会	類型や科目の選択を理解できた	82.9%	89.0%	81.7%
教育実習生からの話	話の内容に興味をもてた	77.8%	-	-
	将来を考える上で役立った	76.9%	-	-
1 学期の学習内容全般	満足している	76.1%	77.1%	-
職業の学習	学習に興味をもてた	77.8%	78.0%	68.5%
	職業の内容を理解できた	79.1%	84.6%	71.6%
職業インタビューの課題	課題に興味をもてた	43.0%	50.2%	48.3%
	インタビューした職業を理解できた	78.3%	86.6%	81.0%
職業インタビュー発表会	発表会に興味をもてた	41.2%	59.3%	56.9%
	他の生徒の発表を理解できた	62.0%	74.9%	69.4%
進路講話（15 年度，〇〇信用金庫）	講話の内容に興味をもてた	-	-	49.1%
	講話の内容を理解できた	-	-	43.5%
進路講話（16 年度，進路企画会社）	講話の内容に興味をもてた	72.0%	70.1%	-
	講話の内容を理解できた	69.2%	76.6%	-
進路講話（16 年度，〇 大学）	講話の内容に興味をもてた	71.0%	80.1%	-
	講話の内容を理解できた	72.4%	84.4%	-
職業別説明会	説明会に興味をもてた	77.3%	90.5%	90.1%
	参加した職業分野を理解できた	80.1%	90.5%	90.5%
職業研究の満足度	研究内容に満足している	68.7%	78.8%	75.9%
上級学校の学習	学習に興味をもてた		67.2%	74.7%
	入試制度や学部学科の内容を理解できた		83.2%	65.8%
進路講話（15 年度，〇 大学）	講話の内容に興味をもてた	-	-	71.1%
	講話の内容を理解できた	-	-	71.6%
進路講話（16 年度，進学情報会社）	講話の内容に興味をもてた	-	73.7%	-
	講話の内容を理解できた	-	76.7%	-
学部学科系統別説明会	説明会に興味をもてた		78.4%	78.2%
	参加した系統分野を理解できた		83.1%	76.4%
進路講話（15 年度，看護・公務員予備校）	講話の内容に興味をもてた	-	-	76.0%
	講話の内容を理解できた	-	-	76.9%
人生設計図の作成	作成に興味をもてた	-	-	48.0%
「将来の夢」作文（第 2 回）	作文に興味をもてた		42.2%	-
上級学校研究の満足度	研究内容に満足している		66.4%	68.4%

- は企画又は評価を実施せず。空欄は平成 18 年 1 月現在で未集約を表す。

別説明会や学部学科系統別説明会のような、自分の興味・関心に応じて参加分野を選べ、かつ一部に体験的内容を含むものや、資料を使つての教室での座学については、比較的評価が高い。その反面で、「将来の夢」作文、職業インタビューの課題、人生設計図作成といった、手間や時間がかかる作業的なものは評価が低くなる傾向がある。また、進路講話に対する評価の良否は、講師の話し方や講話の内容に負うところが大きい。なお、生徒へのアンケートと並行して、教員にもほぼ同様の質問内容のアンケートを実施した。その回答内容には、生徒と類似した傾向が認められた。

毎回の生徒向けアンケートの自由記述欄を見ると、「北斗 21」の学習内容が自分に役立っているという肯定的な意見が圧倒的に多数であるが、一部には否定的な声も聞かれる。参考までに、平成 17 年度 1 学期のアンケートに書かれた意見の一部を紹介しておく。

- 自分の進路について真剣に考えることができた。
- 自分に向いている職業が分かったし、3 年生の時に役立つと思う。
- 自分が将来になりたい職業を調べてから、高校卒業後の進路が入学時から大きく変わった。詳しいことを知るにつれ、“勉強頑張らないと”って思えるようになった。
- 自分が目指していたものを調べてみて、より一層がんばろうという意欲がわいた。
- 将来になりたい職業が決まっていたから、その職業についていろいろ調べることができてよかった。絶対に夢をかなえたいと思った。
- 様々な人から話を聞いて、多くのことを得ることができた。
- 類型説明会や職業学習に一番関心をもてた。「北斗 21」はやってよかったと思っている。
- 仕事に対する興味はあまりない。
- あまり将来のことを考えていない。
- 今の夢とは全然接点がなかった。

ウ 指導内容の改善

(ア) 平成 16 年度の改善点

平成 15 年度末にワーキンググループが、アンケート結果等を基に、1 年間の「北斗 21」の学習内容を総括した。そこでは、大半の学習内容について「継続」の結論が出されたが、問題点も幾つか指摘され、次年度に向けての改善策が提案された。問題となった点は次のとおりである。

学習内容	問題点	改善策
職業の学習	生徒に配付した冊子が見つらなかった。	配付冊子を変更する。
職業インタビュー発表会	生徒にしっかりと聞いてもらおうという気がなく、小さい声で急いでしゃべる。	教員が発表の仕方をしっかりと指導する。
職業別説明会 学部学科系統別説明会	一部に、全体的な説明に終始し、分野に分けた意味が感じられない会場があった。	説明会の趣旨を学校から依頼先や講師にしっかりと伝えておく。
人生設計図の作成	設計図に全く関心をもたない生徒が多すぎる。	人生設計図はまだ生徒にとって現実味が乏しいので、「将来の夢」作文をもう一度書かせる。
その他	正担任と副担任の役割分担があいまいであった。	事前に毎回の分担を決めておく。

このワーキンググループの反省を基に，新年度に入り，次の１年生のワーキンググループが指導内容の計画を立て，実施に移した。平成 15 年度から 16 年度への主な改善点は次のとおりである。

学習内容	改善点
高校生活オリエンテーションまとめ	オリエンテーションは入学当初に実施するため，生徒の記憶が鮮明なうちに，まとめの実施を 1 週間早めた。
「将来の夢」作文（第 1 回）	前年度は原稿用紙に書かせたが，生徒の取組があまり芳しくなかったため，原稿用紙をやめ，ワークシートを利用して質問形式のものに改めた。
クレペリン検査・進路適性研究の結果まとめ	検査結果をしっかりと分析させるために，検査結果が戻ってきたところで，まとめに 1 時間を費やした。
職業の学習	配付冊子を変更した。
「将来の夢」作文（第 2 回）	人生設計図を廃止し，もう一度「将来の夢」作文を書かせることで，１学期の第 1 回のもものと比較させて，１年間の進歩をみることにした。
進路講話の講師	前年度の評価を踏まえ人選を考慮した。
正担任・副担任の分担	指導計画表に明記することにした。

このような学習内容の改善の結果，前掲の＜別表 5＞のアンケート結果をみると，特に「将来の夢」作文（第 1 回）や職業の学習については，生徒の肯定的評価が目立って高くなっており，改善の成果が認められる。反面で，「将来の夢」作文（第 2 回）については，人生設計図よりも評価が低くなってしまい，次年度に向け課題を残した。

（イ）平成 17 年度の改善点

平成 16 年度末における 1 年生ワーキンググループの反省内容は，およそ次のとおりである。

学習内容	問題点	改善策
高校生活オリエンテーションのまとめ	まとめを行う日には，生徒が内容を忘れてしまっている。	オリエンテーション直後にまとめを行う。
クレペリン検査・進路適性研究の結果まとめ	1 時間に両方行うことには無理がある。	それぞれに時間を分ける。
職業インタビュー発表会	他の生徒の発表内容をきちんとワークシートに記入しない生徒が多い。	担任から強く指導する。
職業別説明会，学部学科系統別説明会	・生徒が説明内容を理解せずに参加分野を希望している。 ・担当する教員が何をすべきかがよく理解されていない。	・希望調査に際して，生徒に各分野の説明内容の概略を示す。 ・事前に教員の打合せ会を設ける。
その他	ワークシートを綴じ込んだファイルの管理を生徒に任せると，いい加減になってしまう。	職員室に学級単位のファイルボックスを用意して，学校で保管する。

これを基にして，今年度のワーキンググループが指導計画を検討した。基本的には前年度の内容を継続することになったが，内容の一部について次のような変更を行った。

学習内容	改善点
「これまでの自分を振り返ってみよう」	1学期に実施してきた「将来の夢」作文は、高校生活オリエンテーションの中で書かせる高校生活の抱負に関する作文と内容が重複するため、廃止し、代わりに質問形式のワークシートを用意して、自分史をたどらせた。
教育実習生による話	2時間連続の進路講話に生徒が耐えられないとの懸念から、1学期は外部講師による進路講話を中止し、代わりに教育実習期間中に、8名の実習生から1時間枠で進路選択に関する話をさせた。

高校生活オリエンテーションのまとめは、総合的な学習の時間を利用せず、オリエンテーションの中で実施した。クレペリン検査・進路適性研究の結果のまとめについては、前後の日程の関係から、今年度も1時間枠で実施した。2学期以降の実施内容については、基本的に前年度のものを踏襲している。ただ、ワーキンググループの審議の中で、上級学校研究は1年生には時期尚早なので2年生に移行するのがよいとの意見が出された。しかし、3学期の代替案が出ないまま、今日に至っている。なお、生徒のファイルについては、昨年度末に、全学級分のファイル保管ボックスを購入した。現在は全学年とも職員室に保管されている。

生徒向けアンケートから改善の結果をみると、＜別表5＞にあるように、「これまでの自分を振り返ってみよう」の評価は思ったほど高くはなかったが、逆に教育実習生からの話は、彼らが生徒にとって身近な存在であることを反映して、高い評価を得ることができた。

エ 評価方法

前述のように、ワークシート、アンケートによる自己評価、学級内での発表時の相互評価などが、生徒の実践を評価するための資料になる。各担任は毎時間の生徒の活動を観察するとともに、手元にある生徒のファイルを適宜点検することによって、評価のための資料を蓄積していく。＜別表6＞は、教務部が作成した今年度1年生用の評価規準表である。3学期の学習内容については、昨年度の実施分に基づいて表記してある。なお、昨年度は、3学期のアンケートに際して、次の図にあるように、改めて1年間の各学習活動について、取組を自己評価させた。

1年間の「北斗21」を振り返って、各学習内容に対する自分の取組を5段階で評価してください。						
A = 大変よかった B = ほぼよかった C = ふつうだった						
D = あまりよくなかった E = 全くよくなかった						
実施月	内 容	A	B	C	D	E
4, 6	進路適性研究とその結果分析					
4	「将来の夢」作文（第1回）					
6	進路講話（本校進路指導部・〇〇先生）					
7	職業の学習					
夏休み	職業インタビュー					
9	職業インタビュー発表会					
10	進路講話（進路企画会社・〇 先生）					
11	進路講話（〇 大学・××先生）					
(以下省略)		(〇印を付ける)				

<別表6> 平成17年度1年生評価規準表

学習活動	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
クレペリン検査	検査の目的をよく把握し、意欲的に検査に取り組んだ。	検査の結果を基に、自己の特性について深く考えることができた。		検査の結果を基に、自己の特性をよく理解し、その向上に努めようとした。
進路適性研究	研究の目的をよく把握し、意欲的に研究に取り組んだ。	研究の結果を基に、自己の適性に合う進路の在り方について深く考えることができた。		研究の結果を基に、自己の適性をよく理解し、その向上に努めようとした。
「これまでの自分をふり返ってみよう」	自分史を振り返り、また今の自分をみつめることに強い関心を示し、意欲的にアンケートに取り組んだ。	自分の生い立ちや自分の性格等について、深く考えることができた。	自分史や自己分析にかんする質問に、的確かつ内容豊かに答えることができた。	質問への回答内容から、自分についてよく理解していることがうかがわれた。
類型選択説明会	類型選択を重要な問題ととらえ、熱心に説明を聞くとともに、納得がいくまで進んで調べたり、尋ねたりした。	説明会を基に、自分の進路の方向を踏まえて、適切に類型を選択することができた。		説明会を基に、各類型の教育課程の基本的な特徴、進路方向の差異等についてよく理解した。
進路講話 (進路指導主事) 以後の進路講話も同様の規準。	講話の目的をよく把握して、講話の内容に強い関心をもち、進んで自分の進路選択に役立てようとした。	講話の内容を基に、自己の進路の在り方や伸ばすべき資質について深く考えることができた。	講話の内容について、自分の意見や感想を含めて、ワークシートにしっかりとまとめることができた。	講話を通じて、進路選択のために必要な知識を十分に身に付けることができた。
職業の学習	この学習に強い関心を示し、進んで調べたり、質問したりして、様々な職業をより詳しく理解しようとした。	この学習を通じて、多種多様な職業の中で、自分に適した職業についてよく考え、それを絞り込むことができた。	自分の興味のある職業について、分かりやすく、詳細にレポートにまとめることができた。	職業に関する資料をよく読み、様々な職業の内容をよく理解することができた。
夏休み職業インタビューの課題	この課題に意欲的に取り組み、インタビューを通じて職業をより詳しく知ろうとした。	この課題を通して、様々な仕事のやりがいや苦労などについて、よく考えることができた。	インタビューのレポートを、分かりやすく、内容豊かにまとめることができた。	インタビューを通じて、職業に関する知識や情報を十分に取得することができた。
職業インタビュー発表会	他の生徒の発表に強い関心を示し、この機会を利用して様々な職業の内容を積極的に知ろうとした。	発表会を通じて、働くことの意義や、様々な仕事のやりがい、苦労について、よく考えることができた。	自分の発表をクラスの生徒によく理解してもらえるよう、工夫することができた。 他の生徒の発表を詳しくワークシートに記録することができた。	他の生徒の発表を聞いて、様々な職業の内容についての知識を深めた。
職業別説明会	自分の参加した職業分野に強い関心を示し、熱心に説明を聞いたり、実習に取り組んだりした。	説明会を通じて、自己の進路の在り方や伸ばすべき資質について深く考えることができた。	自分の参加した職業分野について、分かりやすく、内容豊かにワークシートに記録することができた。	この説明会を利用して、自分が関心をもつ職業分野について、必要な知識や技術をよく習得した。
上級学校の学習	この学習に強い関心を示し、進んで調べたり、質問したりして、入試制度や学問分野等をより詳しく理解しようとした。	この学習を通じて、多種多様な学問系統の中で、自分に適した分野についてよく考え、それを絞り込むことができた。	冊子を利用して、入試制度や学部・学科等について、詳しく丁寧にワークシートにまとめることができた。	この学習を通じて、入試制度や学部・学科の内容等について、よく理解することができた。
学部学科系統別説明会	自分の参加した系統分野に強い関心を示し、熱心に説明を聞いたり、実習に取り組んだりした。	説明会を通じて、自己の進路の在り方や伸ばすべき資質について深く考えることができた。	自分の参加した系統分野について、分かりやすく、内容豊かにワークシートに記録することができた。	この説明会を利用して、自分が関心をもつ系統分野について、十分な知識を獲得した。
「将来の夢」作文	作文を書く目的をよく把握し、意欲的に作文に取り組んだ。	将来の進路について深く考え、具体的な展望を作文に盛り込むことができた。	自分の将来の夢を、分かりやすく、内容豊かに文章に表現することができた。	夢の実現のために必要な進路方向や資格等について、よく理解している。
進路研究全般	進路研究の意義をよく把握し、これを自分にとって有意義なものにするため、毎回の学習やワークシートに全力で取り組んだ。	進路研究の成果を基に、進路実現に向けて、学習姿勢の見直しや改善を図ろうとした。	自分が関心をもつ職業や上級学校について、様々な資料やメディアを使って情報を入手することができた。	1年間の学習の成果を踏まえ、自己の目標実現のために必要な知識を十分に身に付けた。

(2) 2年生における研究の内容

ア 指導内容の概要

昨年度は2年生にとって初めての総合的な学習の時間であったため、どのような内容をどのような方法で実施するかが大きな問題であった。前年度末からワーキンググループが時間をかけて検討した結果、1年生からの進路研究を更に発展させていくこと、年度初めには5月実施の修学旅行の事前学習に取り組むこと、現代社会の諸問題に目を向けさせるため、方策として小論文指導を行うことを決定した。平成16年度の実施内容は＜別表7＞にあるとおりである。

昨年度、小論文指導は各学期1回の年間3回実施した。まず第1回の実施に先立ち、国語科の授業を利用して、小論文の書き方を学習させた。その上で、第1回は環境問題の資料を印刷して配付し、1時間目は資料の読み取り、2時間目はワークシートによる資料のまとめを行い、3時間目に原稿用紙に小論文を書かせた。第2回は若者気質と国際協力に関する資料を用意して、生徒にいずれかを選択させ、第1回と同じ手順で指導を行った。第3回はスポーツの功罪並びに若者批判に関する資料を用意し、やはり生徒に選択させた。回を重ねるごとに、できるだけ小論文の作成自体にかかる時間を多くした。なお、今年度の小論文指導の第1回は、昨年度と同様、環境問題を扱ったが、今後第2回には科学技術の問題を、第3回には福祉問題を予定している。

昨年度10月に実施した模擬講義は、1年生の時の職業別説明会や学部学科系統別説明会と同様に、多数の会場(この時は15会場)を用意し、生徒の興味・関心に応じて参加会場を決めさせた。ただし、説明会と違って「講義」であるため、前半・後半には分けず、生徒には2時間連続で一つの会場に参加させることにした。

夏休みの課題であったオープンキャンパスへの参加は、夏休み中に実施される大学等のオープンキャンパスに一人最低1校参加させるものである。事前に地元の大学・短大・専門学校のオープンキャンパスの日程を印刷して生徒に提示し、どこに参加するか計画を立てさせた。そして参加後には、報告書を提出させ、9月に入ってから、各学級で報告会を実施した。

イ アンケートの実施

2年生に対しても、学期末にアンケートを実施した。その結果は＜別表8＞にあるとおりである。これによれば、修学旅行事前学習を除けば、1年生の時のアンケートに比べて肯定的評価が全体として低くなっている。2年生にとって、「北斗21」の内容は新鮮味が薄らいってしまったのかもしれない。特に模擬講義の評価は、1年生の時の職業別説明会や学部学科系統別説明会に比べると、きわめて低い。恐らく生徒は、大学の先生による2時間のアカデミックな講義に耐えられなかったのではないかと。それに、職業別説明会や学部学科系統別説明会と違って、実習の要素が少なかったことも評価の低い要因として考えられる。

また、小論文に対しては、実施回による差はあるものの、概して興味をもてない生徒の割合が高い。小論文指導についての生徒の自由記述をみると、「難しかった」「何もかもが分からない」「もうやりたくない」など、否定的な意見や感想が目立った。その一方で、少数ではあるが、「小論文がうまく書けるようになりたい」「小論文を書くことによって、大学入試というものがとても近い存在に思えて、この時期にやれてよかった」という前向きな声も聞かれた。小論文指導については、今後指導の仕方をもっと工夫したり、小論文を書く目的や意味を明確に生徒に伝えたりする必要がある。

<別表 7> 平成 16 年度 2 年生の実施内容

1 学期	2 学期	3 学期
修学旅行事前学習（ビデオ）	オープンキャンパス参加（夏休みの課題）	進路講話（進路企画会社）
修学旅行事前学習（班別学習）	オープンキャンパス報告会	小論文指導（第 3 回）
小論文指導（第 1 回）	オープンキャンパス報告会	小論文指導
小論文指導	模擬講義	小論文指導
小論文指導	小論文指導（第 2 回）	小論文発表会（学級内）
進路講話（進学情報会社）	小論文指導	1 年間のまとめ，第 3 学期アンケート
オープンキャンパス参加事前準備 第 1 学期アンケート	小論文指導 第 2 学期アンケート	

<別表 8> 2 年生アンケート結果（肯定的回答の割合）

学 習 内 容	学 習 後 の 反 応	17 年度	16 年度
修学旅行事前学習	学習に興味をもてた	79.9%	80.8%
	学習に熱心に取り組んだ	-	77.7%
	見学地の理解に役立った	-	75.0%
小論文指導（第 1 回）	指導に興味をもてた	29.3%	45.5%
	指導に熱心に取り組んだ	64.6%	63.4%
	小論文の書き方を把握できた	44.1%	54.0%
	満足できる小論文を書けた	31.0%	29.5%
進路講話（進学情報会社）	講話の内容に興味をもてた	70.7%	77.2%
	講話を熱心に聞いた	74.2%	83.9%
	講話の内容を理解できた	78.6%	83.5%
オープンキャンパスの課題	課題に興味をもてた	55.4%	42.8%
	課題に熱心に取り組んだ	-	43.2%
	大学・専門学校等を理解できた	50.0%	30.6%
オープンキャンパス報告会	報告会に興味をもてた	52.7%	42.8%
	報告会に熱心に取り組んだ	-	41.0%
	大学・専門学校等の理解に役立った	51.8%	41.4%
模擬講義	模擬講義に興味をもてた	-	16.2%
	講義を熱心に聞いた	-	13.5%
	講義の内容を理解できた	-	16.7%
小論文指導（第 2 回）	指導に興味をもてた	35.1%	60.8%
	指導に熱心に取り組んだ	-	35.6%
	小論文の書き方を把握できた	34.2%	60.4%
	満足できる小論文を書けた	26.6%	68.0%
進路講話（進路企画会社）	講話の内容に興味をもてた		81.5%
	講話の内容を理解できた		80.6%
小論文指導（第 3 回）	指導に興味をもてた		43.7%
	指導に熱心に取り組んだ		67.1%
	小論文の書き方を把握できた		41.0%
	満足できる小論文を書けた		27.0%
小論文の相互評価	企画に興味をもてた		50.9%
	ほかの人の小論文は参考になった		75.2%

- は企画又は評価を実施せず。空欄は平成 18 年 1 月現在で未集約を表す。

ウ 指導内容の改善（平成 17 年度の改善点）

昨年度末のワーキンググループの反省では、次のような意見が出た。

学習内容	問題点	改善策
小論文指導	予想以上に生徒は前向きに取り組んだが、教員側が添削まで手が回らなかった。	小論文は必ず添削して生徒に返す。
オープンキャンパス参加の課題	参加しないままに終わった生徒が多数いて、学級によっては報告会が機能しなかった。	進路希望の多様化により全員に対して参加を強制することが困難になってきた。必要な生徒のみ参加させてはどうか。

これに受け、今年度のワーキンググループで審議した結果、基本的な方針としては前年度の内容を踏襲するものの、次の点については変更することにした。

学習内容	改善点
小論文指導	正・副担任が学級の生徒分を分担して添削し、必ず学期内に生徒に返却する。添削するポイントは学年で統一する。
オープンキャンパス参加の課題	個々の大学・短大・専門学校のオープンキャンパス参加を原則とするが、大学等を絞れない生徒に対しては、リクルート主催の「進学わくわくライブ」への参加でもよいことにする。
学部学科系統別説明会	前年度の評価の低さを踏まえ、模擬講義は3年生に回し、もう一度学部学科系統別説明会を実施することにした。
3 学期の外部講師による講演会	昨年度は進路講話だったが、今年度は消費生活専門相談員に講師を依頼し、消費者問題の出前講座を開催することにした。

なお、オープンキャンパスへの参加状況は、7月 27 日にナゴヤドームで開催された「進学わくわくライブ」に参加した 2 年生は 162 人もおり、かえって大学等へ足を運んだ生徒は少なかった。

エ 評価方法

2 年生用の観点別評価規準表は＜別表 9＞のとおりである。3 回の小論文指導については、小論文の作成自体と、各回で取り上げるテーマについて評価規準を設定してある。また、1 年生と同様に、昨年度は 3 学期のアンケートに際して、改めて 1 年間の各学習活動に対する取組を自己評価させた。

3 研究実践上の困難点

第一に、教員側のニーズと生徒側のニーズとが必ずしも合致しない面がみられる。高校生にとって高校卒業後の進路を考えることは、避けては通れない課題である。教員側としては、できるだけ後悔しないような進路選びをさせるため、「北斗 21」を利用して、1 年生の最初から様々なメニューを用意し、3 年間かけて少しずつ自分の進路について考えさせるようにしている。ところが、生徒の中には進路選択をまだ先のことととらえる者もいて、どのメニューに対しても全員が興味をもって取り組んでいるとは限らない。特に、前掲の＜別表 5＞や＜別表 8＞にみられるように、作文やレポートを書かせたり、発表させたりするような作業的な内容については、アンケートでの評価が低くなる。毎回の学習内容が自分の進路選択に直結するという意識を生徒に自覚させ、真剣に取り組むように指導

<別表9> 平成17年度2年生評価規準表

学習活動	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
修学旅行研究	修学旅行の行き先に強い関心をもち、知りようやビデオによる事前学習に熱心に取り組んだ。	班別の自由行動の行き先についてよく調べ、適切な計画を立てることができた。	学校が用意した資料にとどまらず、様々なメディアを駆使して、幅広い情報を得ることができた。	修学旅行の行程や見学地について、十分な知識を身に付けることができた。
環境問題研究	環境問題に強い関心を示し、自分の設定課題について、積極的に調査研究に取り組んだ。	自分が取り上げた課題について、様々な資料を読み解いて多角的に考察することができた。	調査研究に際して、多種多様なメディアを駆使して多くの情報を収集し、それを適切に利用することができた。	環境問題について、その原因や実情、対策や問題点などを総合的に理解することができた。
小論文指導 以後の小論文指導も同様の規準。	小論文を書く目的をよく把握し、少しでも内容のよい小論文を書こうと熱心に取り組んだ。	小論文に取り上げた課題を深く分析し、説得力のある小論文を書くことができた。	様々なデータを駆使し、的確な表現を用いて小論文を書くことができた。	小論文の書き方をよく心得た上で、課題に対する十分な知識を盛り込んで小論文を書くことができた。
進路講話 以後の進路講話も同様の規準。	講話の目的をよく把握して、講話の内容に強い関心をもち、進んで自分の進路選択に役立てようとした。	講話の内容を基に、自己の進路の在り方や伸ばすべき資質について深く考えることができた。	講話の内容について、自分の意見や感想を含めて、ワークシートにしっかりとまとめることができた。	講話を通じて、進路選択のために必要な知識を十分に身に付けることができた。
オープンキャンパス報告会	他の生徒やグループの発表に強い関心をもち、この機会を利用して様々な大学等を積極的に知ろうとした。	報告会を通じて、各大学の特色や内容をつかむことで、自分に適した進路をよく考えようとした。	自分の報告を他の生徒によく理解してもらえよう、工夫することができた。また、報告会の内容をワークシートに詳しく記録することができた。	他の生徒やグループの発表を聞いて、様々な大学等についての知識を深めた。
学部学科系統別説明会	自分の参加した系統分野に強い関心を示し、熱心に説明を聞いたり、実習に取り組んだりした。	説明会を通じて、自己の進路の在り方や伸ばすべき資質について深く考えることができた。	自分の参加した系統分野について、分かりやすくワークシートにまとめることができた。	この説明会を利用して、自分が関心をもつ系統分野について、十分な知識を獲得できた。
科学技術問題研究	科学技術問題に強い関心を示し、自分の設定課題について、積極的に調査研究に取り組んだ。	自分が取り上げた課題について、様々な資料を読み解いて多角的に考察することができた。	調査研究に際して、多種多様なメディアを駆使して多くの情報を収集し、それを適切に利用することができた。	科学技術問題について、その原因や実情、対策や問題点などを総合的に理解することができた。
消費者問題に関する講演会	講演会の内容に強い関心をもち、熱心に講演を聞き、ワークシートにまとめることができた。	講演会を通じて、消費者問題を深く考察し、自分の立場でなすべきことをよく考えることができた。	講演の内容について、自分の意見や感想を含めて、ワークシートにしっかりとまとめることができた。	講演会を通じて、現代の消費者問題について、幅広い知識を獲得することができた。
福祉問題研究	福祉問題に強い関心を示し、自分の設定課題について、積極的に調査研究に取り組んだ。	自分が取り上げた課題について、様々な資料を読み解いて多角的に考察することができた。	調査研究に際して、多種多様なメディアを駆使して多くの情報を収集し、それを適切に利用することができた。	福祉問題について、その原因や実情、対策や問題点などを総合的に理解することができた。

していかなければならないが、教員側、生徒側ともに惰性に流れてしまっているのも事実である。

また、2年生で実施する小論文指導も、教員側と生徒側の意識のギャップが目立つ学習活動である。自分の考えを文章にして表現できる力は、生徒にとっては成長とともに重要になっていく能力の一つである。確かに普段からあまり文章を書く習慣のない生徒たちにいきなり小論文を課せば、戸惑ったり拒絶反応を示したりすることは自明である。生徒が小論文に取り組む様子を目にすると、教員側も消極的な気持ちになりがちだが、小論文を書く意義を生徒にいかに浸透させ、小論文に対する生徒の興味をいかに喚起していくかを教員側がよく考え、共通理解を図っていくことが大切である。

第二に、「北斗 21」にかかわる教員間の議論が十分ではない。各学年のワーキンググループが年間にもつ会合の回数はあまり多くなく、たいていは学期の初めに会合をもち、その学期の実施計画を検討する程度である。もっともそれだけでは毎時間の指導が機能していかないので、毎週の担任会で細部をつめることになる。その結果、ワーキンググループの日常的な仕事は、ワークシートを作成したり、進路講話や各種説明会の手配をするなど、実務面が中心となる。また、ワーキンググループの教員とそれ以外の教員、あるいは正担任と副担任との間の連携もあまり密ではない。そのため、実施内容について齟齬が生じることもある。しかも、議論が不十分なことを反映して、実施計画も前例踏襲に傾きがちなになり、前年度の資料やワークシートをそのまま、あるいは若干の加工をした上で生徒に配付することが多い。

第三に、「北斗 21」における生徒の評価は、もちろん日常的に実施し、たえず生徒に返していくことが望ましいであろうが、本校では十分とは言えず、本格的な評価の作業は、年度末に指導要録記載に集中して実施されている。その際には、観点別評価規準表が活用されるが、評価の方法や内容は担任間で統一されていない状況である。ただ、普段からこまめに評価活動をしていくためには、全教員の理解と協力を得る必要があり、現実には容易なことではなく、道のりは遠いと言える。

4 3年間の成果と今後の課題

(1) 成果

1年生から進路研究を行う目的は、生徒に将来の進路目標をもたせることにより、早い段階から進路実現に向けての努力を促そうという点にある。進路意識の度合いにはかなり個人差があるが、全体としてみれば、生徒一人一人が早期に進路について真剣に考え始めたことは、生徒へのアンケートから十分にうかがうことができる。

昨年度及び今年度、2年生向けの1学期のアンケートで、高校卒業後の第一希望は何か、将来の職業希望は決まっているかを尋ねた後、「現在の進路希望を考える際に、1年生の時の『北斗 21』はどの程度役立っていますか」と質問した。平成16年度と17年度の結果は次のとおりである。

回答項目	平成17年度	平成16年度
おおいに役立っている	4.4%	3.2%
少し役立っている	58.0%	61.8%
あまり役立っていない	27.0%	26.7%
全然役立っていない	8.4%	8.3%

これによれば、平成16年度、17年度とも数字に大差はなく、6割を超える生徒が1年生の時の「北斗 21」は役立っていると答えている。その点で、進路研究はそれなりの成果をあげていると考えられる。

また、本校では学期ごとにアンケートを実施し、その結果を指導の改善に生かしてきた。このようないわゆるPDCAサイクルの実践は、「北斗 21」の指導内容をより充実させていく上で、大変効果的であり、総合的な学習の時間は年々充実度を増していると実感している。今後ともPDCAサイクルを継続することで、更なる充実を図っていききたい。

(2) 課題

第一に、たとえ「北斗 21」を通じて生徒の進路意識が高まったとしても、その場限りでは生徒の進路意識はなかなか具体化されず、ましてや学習意欲へと転化していくことも難しい。そこで大切なことは、担任によるホームルーム指導や個別指導等を通じて生徒の進路意識をさらに育てていくことである。同様に、小論文指導によって社会をみる目を養っても、教科の学習との連携を図らなければ、生徒が自分の考えを深めていくことはできないであろう。このような「北斗 21」と担任指導との連携、あるいは「北斗 21」と教科指導との連携など、「北斗 21」以外の場でその学習内容をフォローしていく体制が学校全体として必要であるが、本校ではこの点が手薄である。この問題は学校全体がシステムとして取り組まなければならないことであるから、今後学年会や教科会、進路指導部などと連携しながら、時間をかけて改善していききたい。

第二に、前述のように、生徒に対する明確な形での評価は年度末に実施されている程度なので、これをいかに日常的に行っていくかが課題である。日常的に生徒に評価を返していけば、そのことが生徒の「北斗 21」への取組の改善にもつながるであろう。これについては、通知表に「北斗 21」の評価欄を毎学期設けることなどを含めて検討していききたい。同時に、現在の評価は各担任が行うことになっているため、指導要録への記載方法等は不統一の状況である。また、指導要録の記載欄には限りがあり、評価規準表にとらわれた記載では偏りを生じがちになる。今後、同じ評価規準に照らして、公平・公正に行うという評価の基本に配慮しながら、より客観性があり、全体像をもとらえられるような評価方法を研究・確立していくことが課題になる。

第三に、いかに教員間の議論を積み重ね、共通理解を図っていくかということである。実のところ、総合的な学習の時間に対する教員の関心は決して高くない。議論しようとしても意見が出ないことは、これまで何度も経験してきている。議論を深めていく前提として、何よりも教員の意識変革が求められる。

第四に、外部評価をどのように実施するかということである。これまで本校では「北斗 21」に関しては教員・生徒対象のアンケートしか実施してこなかった。保護者やさらに地域から評価を得ていくためには、情報発信が不可欠となるが、「北斗 21」の学習内容を外部にいかに伝え、理解を得ていくかは、高校生レベルになるとなかなか難しい。もちろんその評価をどのように生かすかという点も問題になろう。外部評価は、総合的な学習の時間だけでなく、学校評価にかかわる問題なので、引き続き検討していききたい。